

平成23年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	佐賀県立有田工業高等学校		
2 所在地	佐賀県西松浦郡有田町桑古場乙 2902		
3 校長名	堀江 秋夫		
4 学級数 児童生徒数	15学級 596人	5 実施学年 児童生徒数	1・2・3年 596人

6 取組のねらい

佐賀県が推進するユニバーサルデザインについての知識・理解を深め、生活の中での身近なUDについて知る機会とする。また、社会とUDの現在について考え、「ものづくり」の工業高校として今何が必要とされているかを知り、今後の学習意欲や学習成果につながることをねらいである。

7 取組の実際

◆学校全体での取り組み

有田工業高等学校開校記念講演会

日時：平成23年5月26日

演題：「ユニバーサル デザイン」

講師：UD-Unit 代表 細山雅一

ユニバーサルデザインの成り立ちや歴史、また現代社会における必要性や今後の可能性などについて、専門分野を問わずわかり易い講演をして頂いた。生徒たちの反応もよく、今後の授業や生活に生かせる内容であった。



↑UDについての基本的な考え方について講演を頂いた。



↑講師の細山雅一氏。佐賀県とのつながりも深い。

◆各教科・科目における取組み

・デザイン科2年生：製図

製図では、デザインパテントコンテスト応募を2学期の目標にしており、まず身の回りの製品を観察することから始めた。コンテストのための製品デザインのテーマは「ユニバーサルデザインの考えを入れた身の回りの工業製品」とした。画鋸からシャンプーのボトルまで様々な製品を自分たちなりにかたち

にしようという試行錯誤のあとが見えた。結果としては、この授業からコンテスト入賞者（意匠権出願支援対象）を3名出すことができた。（3年のプロダクトデザインの授業作品を出品したものと併せ7点が支援対象となる）

※コンテストの性格上、出品した製品デザインの画像は公開できません。

- デザイン科3年生：プロダクトデザイン「校内使用のUD椅子」

UDの学習を行った生徒たちが、3年間過ごしてきた校内にUDの椅子を置く設定。マトリックス法という発想法でアイデアを出し、形や素材をスケッチさせた。またコンセプト決定後、図面を描きマケットの成形を行った。多種多様な椅子が仕上がったが日常的な使用を想定できていない作品も見受けられ、普段の生活の中で椅子への観察が不十分であったことにあらためて気付いたことが収穫であった。

- デザイン科3年生：プロダクトデザイン

UD特別講義

日時：平成23年10月6日

演題：ユニバーサルデザイン～ひとにやさしいところを持とう～

講師：西日本工業大学 教授 竜口隆三先生

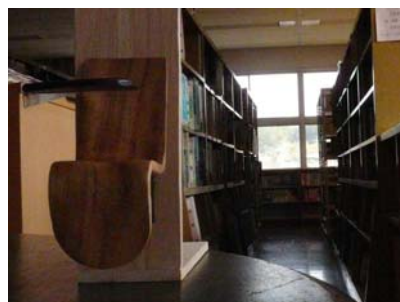
プロダクトや課題研究の授業でのテーマを考えている中での講義で、大変参考になった。実際の企業での経験や、世界にある様々な種類のUD製品を紹介して下さり、社会とデザイン・人とデザインの関わりについて事例をもとにわかり易くお話し頂き、今後の学習だけでなく、将来的にも役に立つお話を聞かせて頂いた。



↑ 生徒作品 1



↑ 生徒作品 2



↑ 生徒作品 3

- デザイン科3年生：課題研究「A I D～デザインのちから～」

今年は、東北での震災を契機に、「デザインにできる支援のかたち」をテーマに卒業制作を取り組むこととなった。勿論UDともつながるテーマである。生徒各々が今の社会を見つめ、どのような人が、どのような支援を必要としているのか、その解決策をかたちに表した。



↑形状にUD要素を取り入れた椅子



↑介護についてのホスピタリティをテーマにしたCM



↑被災地向けの携帯トイレの提案

## 8 取組の成果と課題

UD教育推進校における取組みとしては、全体では1回の講演会のみで、どのくらい職員や生徒たちに伝わったのかが不安が残る。職員の統一感や連携も取れてない中、実際にUDを題材にした授業もまだ十分でない。しかし、この取組みを行うことでUDについて知ることはできたと思う。

今年度の取組みを契機に他の教科や科目でUDに触れる機会を増やし、生徒達への理解へ繋がって欲しい。このようにUD教育への理解を深め、生徒の主体的な活動を産み、本校での取組みを地域へ発信することで、生徒の自信に繋がることが期待できるので今後も続けていきたい。

その為には職員へ啓発研修を行い、常にUDの考え方を意識しながら危険な箇所はないか学校の施設・設備を観察し、またクラス経営においても、相手を思いやる気持ちを促すことで、校内から地域に至るまで、人やものを大切にできる工業高校として教育効果も十分に見込めると考える。